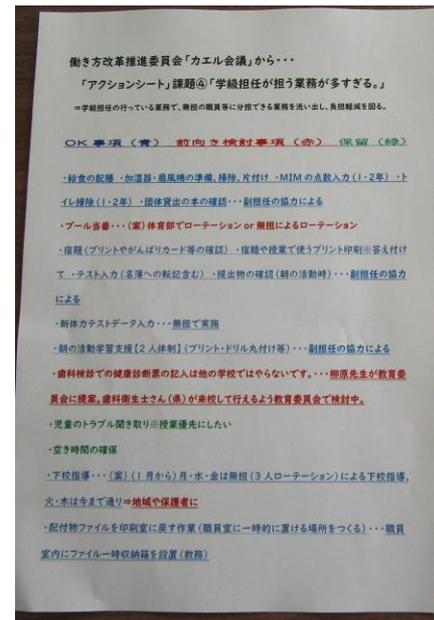
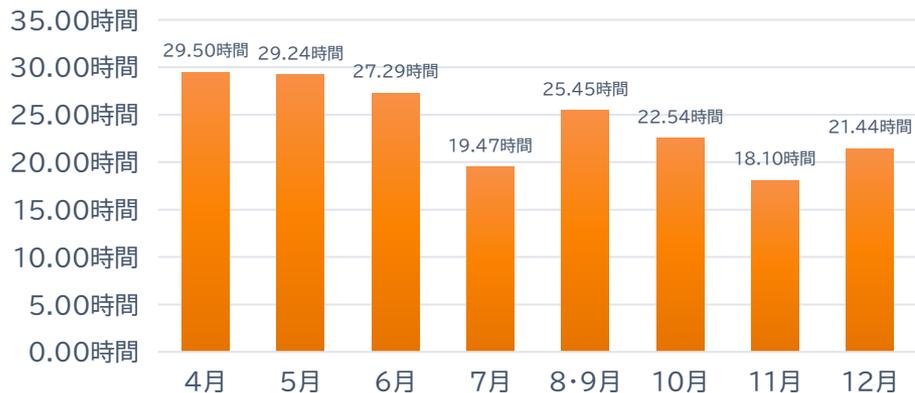


令和7(2025)年度学校における働き方改革実践報告会 小学校

効率よく仕事ができる工夫をし、心のゆとりをもって子どもたちと向き合う時間を確保できる学校

- ・集金を口座引き落としでできるようにする。
- ・下校指導、学校付近の危険箇所の見守りを地域にお願いする。
- ・次年度の教育課程で、低学年の総授業時数の適正化を図る。
- ・学級担任の業務で、無担職員等に任せられるものを洗い出し、業務量の均等化を図る。
- ・ICTの効果的な活用について研修
- ・会議や研修の精選と短時間で実施する工夫

時間外勤務時間の平均

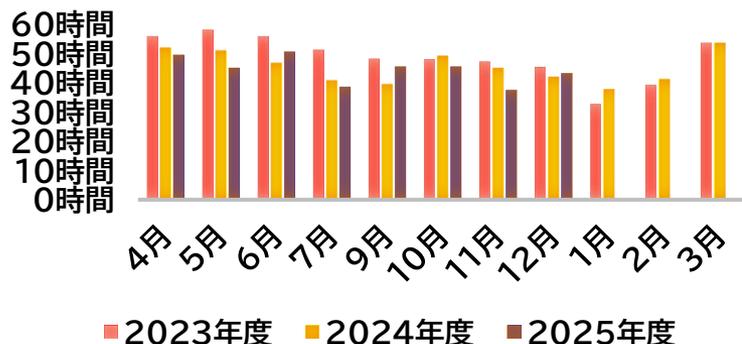


時間外勤務時間の平均が減少(時間外在校等時間45時間超が4月17人から12月3人に減少)
職員間の業務量の均等化に向けて前進(学級担任の業務で分担できるものを洗い出した)

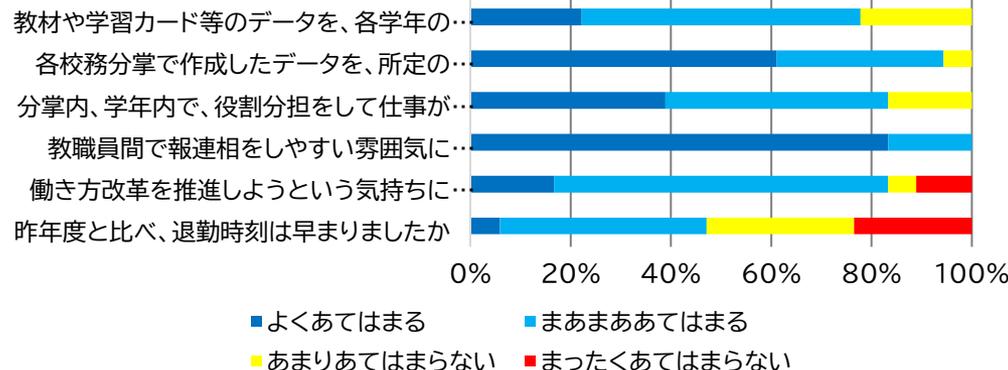
仕事のシステム化を進め効率化を図るとともに、役割分担をすることで、負担感を減らす。報連相のしやすい雰囲気を醸成することで、互いに支え合い成長し合える。公私ともに充実した学校

- ・各学年の教材やワークシート等のデータを所定フォルダに確実に保存し、次年度へ引き継ぐ。
- ・各校務分掌のデータの確実な保存と有効活用を行うとともに、次年度へ引き継ぐ。
- ・学校支援ボランティアの活用を広げることで、教育効果を上げるとともに、教材研究時間を捻出する。

月平均(ひとりあたり)時間外労働時間



これまでのふり返し(アンケート・12月)



◎「教職員間で報連相をしやすい雰囲気になっている」と回答した割合は**100%**！

○次年度に向けてのデータの整理は、着実に進んでいる！

○働き方改革を進めるには、意識することと継続することが大切！

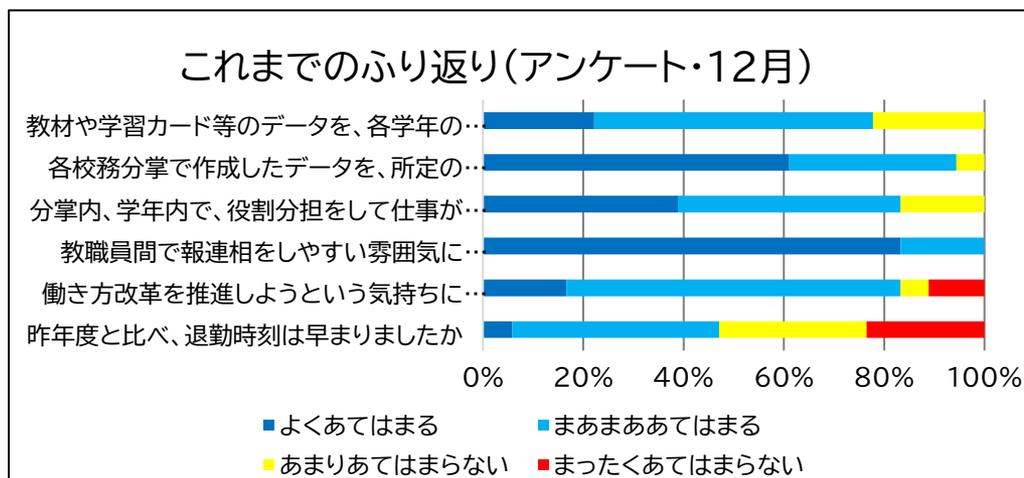
栃木県足利市立北郷小学校

職員数23名



教職員アンケート項目	よくあてはまる	まあまああてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
教材や学習カード等のデータを、各学年のフォルダに格納していますか。	22.2	55.6	22.2	0
各校務分掌で作成したデータを、所定のフォルダに格納していますか。	61.1	33.3	5.6	0
分掌内、学年内で、役割分担をして仕事ができますか。	38.9	44.4	16.7	0
教職員間で報連相をしやすい雰囲気になっていますか。	83.3	16.7	0	0
働き方改革を推進しようという気持ちになれましたか。	16.7	66.7	5.6	11.1
昨年度と比べ、退勤時刻は早まりましたか。	5.9	41.2	29.4	23.5

単位:%



益子町立七井小学校 職員数23名

教職員が明るく笑顔にあふれ、互いに助け合い、協力し合い、風通しのよい環境。弱音や悩みを一人で抱えずみんなで共有。教員一人ひとりがよさを発揮、互いの笑顔と健康を支え、安心してやりがいを感じられる学校

- ・職員間のコミュニケーションをさらに円滑にするために、雑談できる時間を月に1回程度設定→カフェタイム
- ・放課後時間の確保 前期の学校評価を見直し、後期の時間割を見直し、高学年担任の放課後業務時間を捻出
- ・困り感、相談ごとを誰にでも相談できる窓口を開設 →「職員問い合わせフォーム」の開設
- ・働きやすさの視点を確保し、それを土台に、一人ひとりの働きがいを創出できるような職員風土づくり

カエル会議の様子



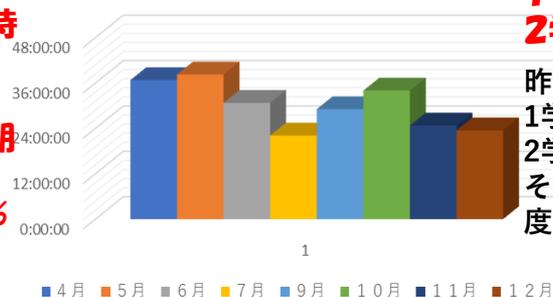
カフェタイム

月別時間外勤務時間の推移

**月45時間超が
1学期平均8人
2学期平均4人に減少**

昨年度、月45時間超
1学期平均9人、
2学期平均5人
それぞれの学期、今年
度は減少に転じた。

**2学期時
間外勤
務時間
は1学期
に比べ
約13%
の減少**



- ・カフェタイムを2学期以降月1回開催。ほっとできる時間が捻出された。
- ・時間外勤務時間80時間超、1学期1人、2学期は0人。昨年度は1, 2学期合わせて4人
- ・2学期の月別時間外勤務時間平均約27時間。1学期と比較し約13%減少

那須塩原市立東原小学校

職員数 17名



外部との連携を図り、業務を効率化し、体、心、時間の余裕をもって、ワークライフバランスを大切にする。組織で学び、高め合い、互いに助け合い、働きがいを感じてみんなが笑顔になる学校

- ①働き方改革の必要性の理解と勤務状況の客観的な把握 【時間外勤務時間の周知と個人のありたい姿の目標設定】
- ②学校風土の醸成(自主・共生、自己実現) 【学級活動を土台とした学級づくり、授業づくり、学校づくり】
- ③トップダウンとボトムアップ(3指導部会)を交えた機敏的、継続的な取組 【通信表の所見廃止、外部人材の積極的な活用】
- ④困難な課題に対しての要因分析と解決策の実行 【児童指導・・・未然防止に向けた指導の充実、マニュアル作成】

資料1 職員会議資料「個人のありたい姿」

令和6年9月18日(水)記入(10月職員会議)

1、現状と理想の出勤時間と退勤時間を入力しましょう。

	出勤時刻	退勤時刻
現状(だいたい)	7:40:00	20:00
理想	7:40	18:30
差	0:00	1:30

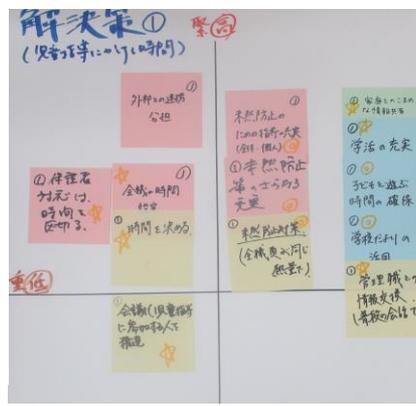
2、1の理想の出勤時刻、退勤時刻に近付くためにできることを考えましょう。

①どの仕事をどれくらいの時間でできているか自分で把握→放課後の予定に活かす

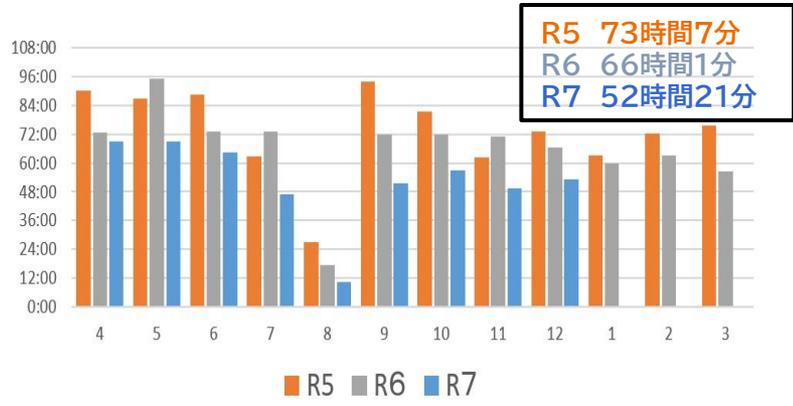
②5分のできることは後回しにしないですぐやる。

③出張後は直帰する。

資料2 カエル会議「児童指導にかける時間を減らす解決策」



資料3 R5～R7 時間外勤務時間の比較



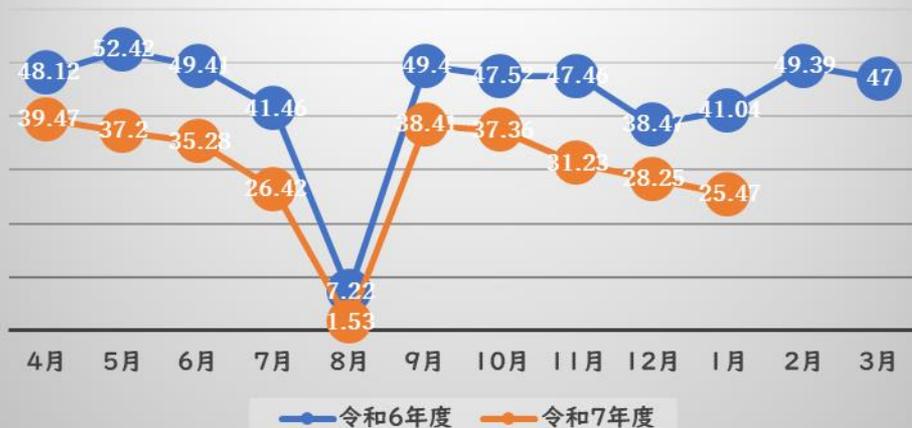
- ①職員の学び合いと協働意識のさらなる向上
- ②時間外勤務時間の大幅削減 **平均17時間13分減(25%減)** (R7とR5・6の平均の比較)
- ③保護者アンケート「学校は、お子さんや保護者の相談に対して、丁寧な対応をしている。」の肯定的評価が昨年度に比べて**9%増加**

相談し合える雰囲気の中で学校にとって必要なことを見極め、教職員も児童も生き生きとした学校

- ・保護者への連絡は最小限に
- ・本校ポータルサイトにおいて教材を共有
- ・教職員でなくてもできる仕事はICT支援員・学生ボランティアに依頼
- ・週1回の打合せ時に、児童指導・学級経営等に係る情報交換



全職員の1か月平均超過時間



1か月平均超過時間に係る考察

- ・R6からR7にかけて大幅な人事異動があった。（職員の半数20名が入れ替わり、職員室の放課後の雰囲気が変化した。）
- ・保護者対応の時間を勤務時間のみとした。（R6 7:40～18:00 ➡ R7 8:10～16:40）
- ・児童指導、学級経営に重点を置き、全校体制で共通理解・共通実践を心掛け、未然防止・初期対応の充実に努めた。

- ・1か月平均超過時間が令和6年度と比較して、令和7年度はすべての月において減少した。
- ・本市独自の学校評価である「うつのみや学校マネジメントシステム」における質問項目「勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」について、教職員の肯定回答率が令和6年度の74.1%から令和7年度は90.0%に向上した。

日光市立大室小学校 職員数32名



無駄を省き、チームで助け合い成長を実感できる学校。心と時間にゆとりをもち、子供たちにポジティブに向き合える教職員。誰もが居心地よく、笑顔で定時退勤できる職場。

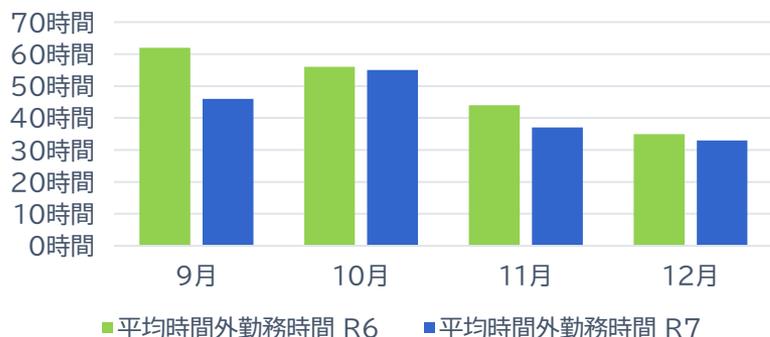
課題

- ①働き方改革を進めるための担当者が不明瞭
- ②定時退勤のあきらめ、タイムマネジメントができない、雑談が長い
- ③何が忙しいのか分からない、仕事を1人で抱えがち
- ④会議が多い、放課後のゆとりがない、予定にないことが急に入る
- ⑤学校評価が記述式で大変
- ⑥児童指導・保護者対応が多い、相談しづらい雰囲気
- ⑦休憩時間がない

アクション

- ①カエル組(プロジェクトチーム)の立ち上げ:資格は「楽しめる人」
- ②カエルボードの設置:退勤時間の視覚化、出勤時に退勤時間を決定、退勤時間に音楽を流す:「18:40退勤」を合言葉に!
- ③ヘルプボード・シュレッターボックスの設置:業務負担の分担
- ④ノー会議・ノー清掃デーの設定:職員会議の簡略化、清掃指導の工夫、チームスのチャンネル分け:打合せの簡略化、業務の視覚化
- ⑤グーグルフォームの活用:学校評価、各種アンケート
- ⑥職員レク・会議室の改造:教職員同士の交流の場
- ⑦コミュニケーション信号機の設置:休憩時間の確保 (※下線:写真参考)

時間外勤務時間(平均) (表1)

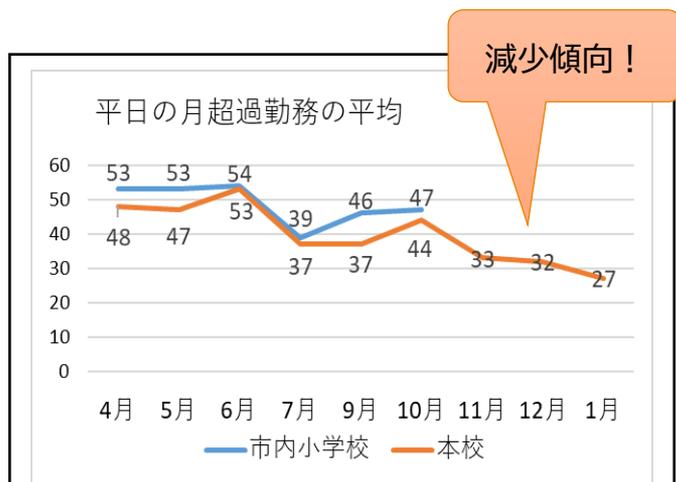


後期の学校評価(教職員用)「業務改善や同僚性の構築により、安心して勤務できる職場構造が整備されているか」では、100%が肯定的な回答をしている。時間外勤務時間が、昨年度との比較(表1)から、11月以降に国の上限指針である月平均45時間以内となり、退勤時間が全体的に早くなり改善されつつある。

下野市立国分寺小学校 職員数45名

安心して話し合い、支え合いながら、共によりよい学校づくりを進める職員集団をめざす

- ・学年会を大切にし、見通しをもち計画的に業務を進めることで**安心感が生まれる**。
- ・玄関の施錠時刻、留守電対応開始時刻を明確にすることで、**時間を有効活用しようとする意識が高まる**。
- ・**無担の教職員**によるお手伝いシステム「chocoTETSU」で、**支え合う体制が整う**。
- ・物やデータの**管理を徹底**することで、**利用しやすさが向上する**。
- ・消耗品の一括管理で、**無駄がなくなり**、学年会計の**簡潔性、正確性が高まる**。
- ・話し合い、**共通理解を図る**ことで、もやもやが解消し、**気持ちよく仕事ができる**。



教室で使う消耗品等は一括管理
「使ったら、元に戻す」を徹底

各学年の考えを持ち寄る「カエル会議」



- ・「カエル会議」で話すことで、本校の**課題が明確**になった。
 - ・「カエル会議」を継続することで、ちょっとしたことでも安心して話し合い、**ちょっとした改善**につながった。
- 「教職員自己評価」が、昨年度平均と比較し、全体で2%UP、「組織」の力を問う項目は4%UP**